

グラフでみる加工食品の 生産・販売・外食等の指標



目 次

< グラフでみる "コロナショック"からの再生 >

1. 加工食品の生産動向
2. 食品卸売業・食品小売業
3. 外食産業
4. 食料品の物価

< 今月のトピック >

農林水産物・食品の輸出動向

食品製造業の海外現地法人の売上高



1 加工食品の生産動向 <グラフでみる"コロナショック"からの再生>

食品需給研究センターでは、食品製造業の月次生産動向について、調査・分析業務（農林水産省「食品産業動態調査」）として実施しています。

ここでは、加工食品の調査対象のうち、特に今般の新型コロナウイルス感染症の影響が大きい品目の生産動向（増減率、速報値）についてとりあげます。

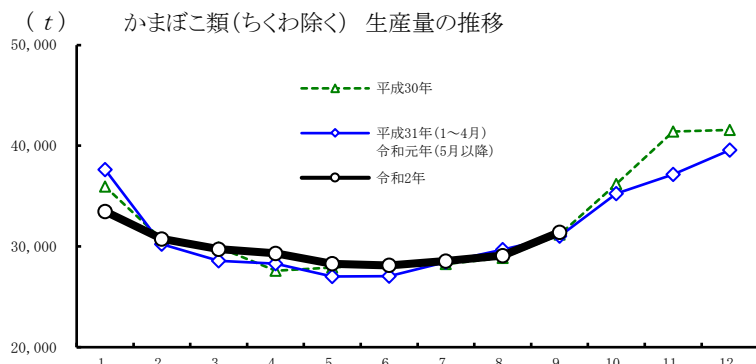
なお、詳細は、<http://www.fmric.or.jp/stat/stat.html#seizou>

「食品製造業の生産動向」をご覧ください。

○ かまぼこ

生産量 対前年同月比

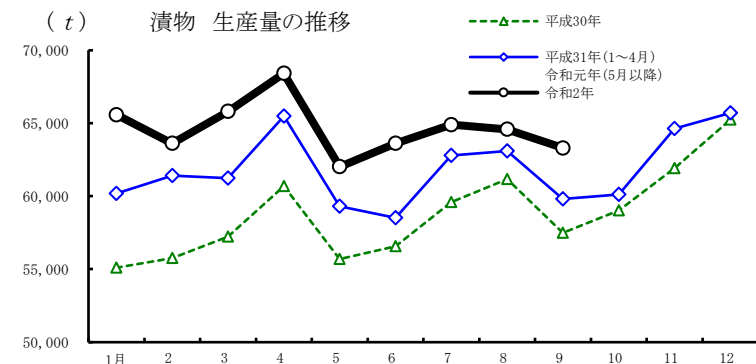
9月 1.2% 増加



○ 漬物

生産量 対前年同月比

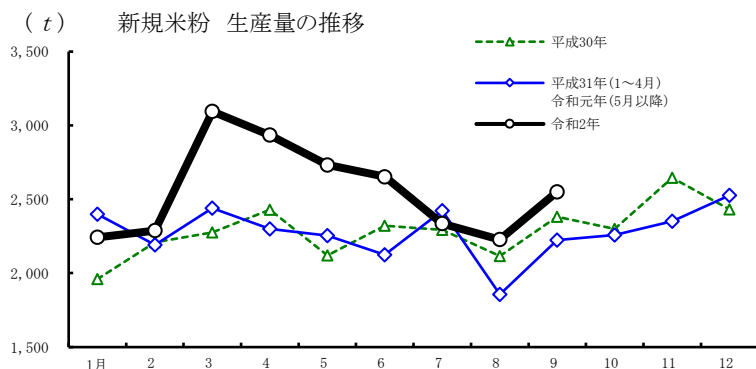
9月 5.8% 増加



○ 新規米粉

生産量 対前年同月比

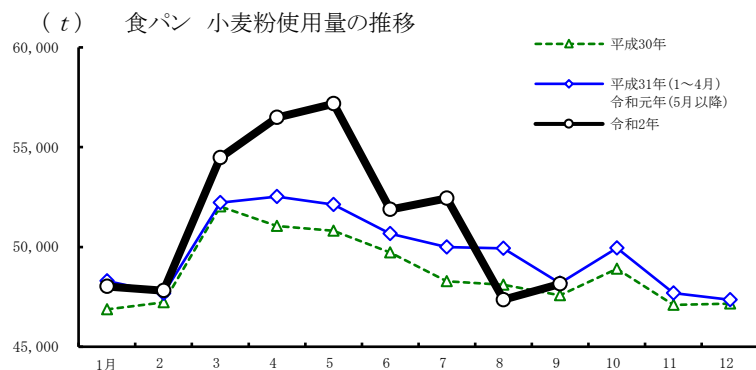
9月 14.7% 増加



○ 食パン

小麦粉使用量 対前年同月比

9月 0.1% 減少



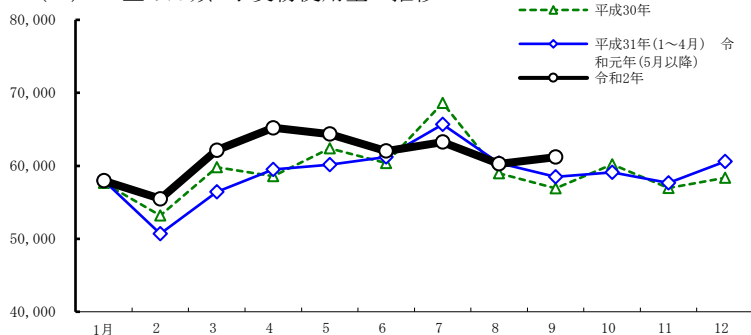
1 加工食品の生産動向 <グラフでみる"コロナショック"からの再生>

○ 生めん類

小麦粉使用量 対前年同月比

9月 4.6% 増加

(t) 生めん類 小麦粉使用量の推移

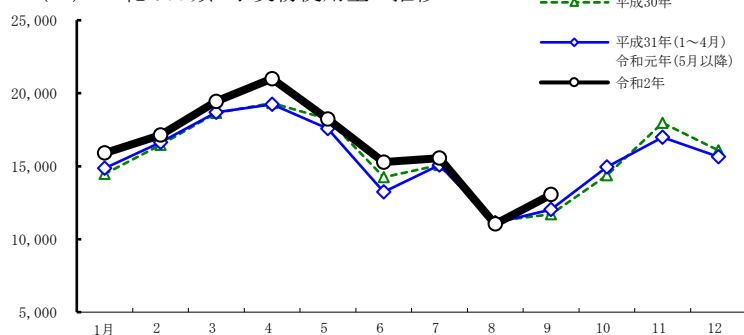


○ 乾めん類

小麦粉使用量 対前年同月比

9月 8.4% 増加

(t) 乾めん類 小麦粉使用量の推移

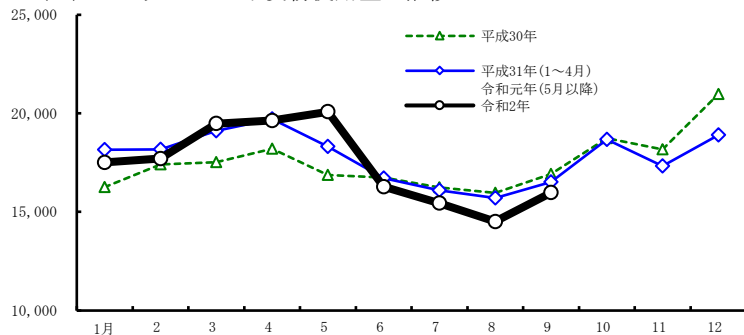


○ カップめん

小麦粉使用量 対前年同月比

9月 3.3% 減少

(t) カップめん 小麦粉使用量の推移

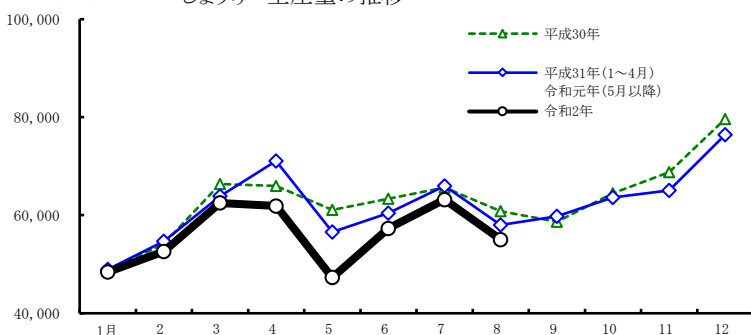


○ しょうゆ

生産量 対前年同月比

8月 5.1% 減少

(kl) しょうゆ 生産量の推移

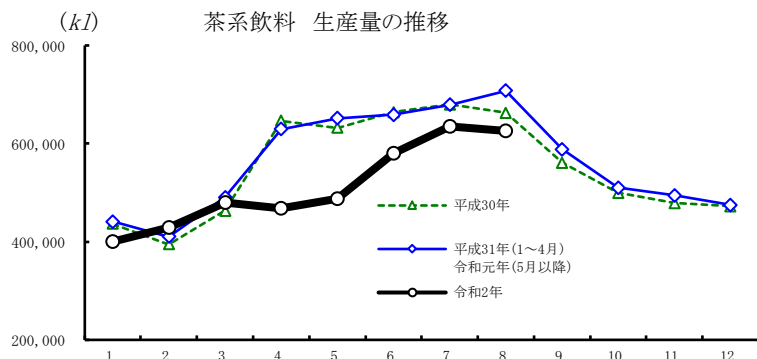


1 加工食品の生産動向 <グラフでみる"コロナショック"からの再生>

○ 茶系飲料等

生産量 対前年同月比

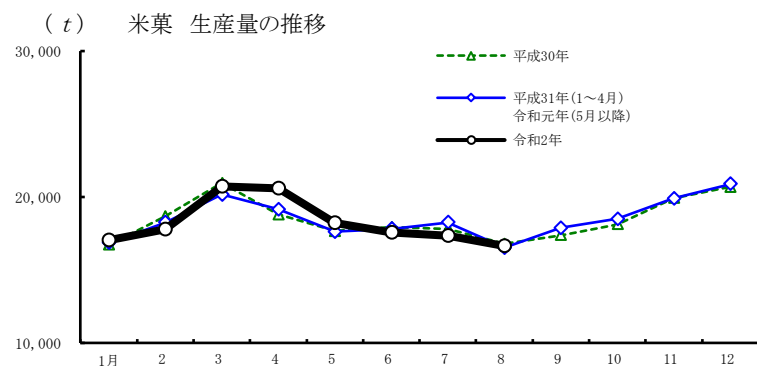
9月 **6.0%** 減少



○ 米菓

生産量 対前年同月比

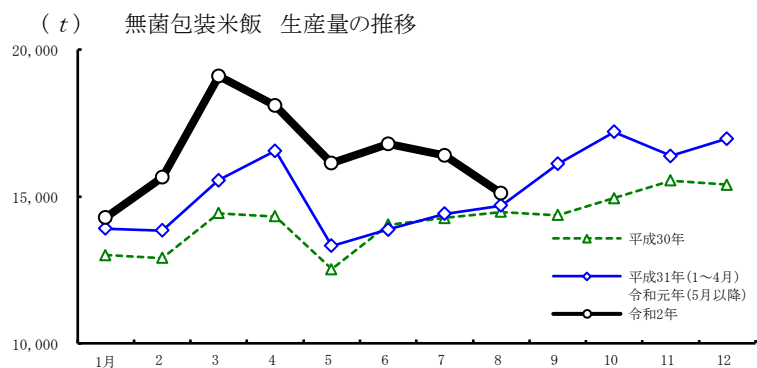
9月 **2.8%** 減少



○ 無菌包装米飯

生産量 対前年同月比

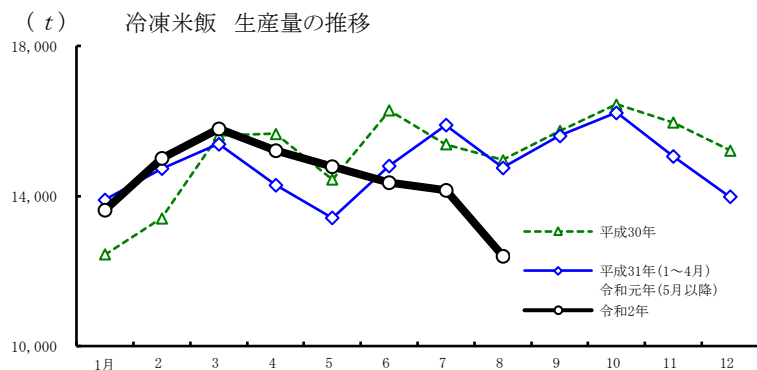
9月 **0.8%** 増加



○ 冷凍米飯

生産量 対前年同月比

9月 **2.9%** 増加



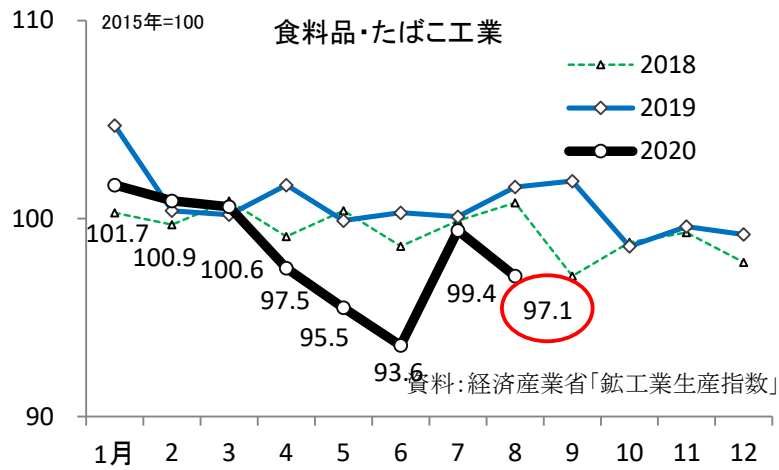
<参考> 食料品・たばこ工業の生産動向
(経済産業省「鉱工業生産指数」より)

○ 食料品・たばこ工業

生産指数 対前年同月比

8月 4.4% 低下

※経済産業省「鉱工業生産指数」は、鉱工業製品を生産する国内の事業所における生産、出荷、在庫に係る諸活動の統計。食品製造業の月次の生産動向について、みることができます。



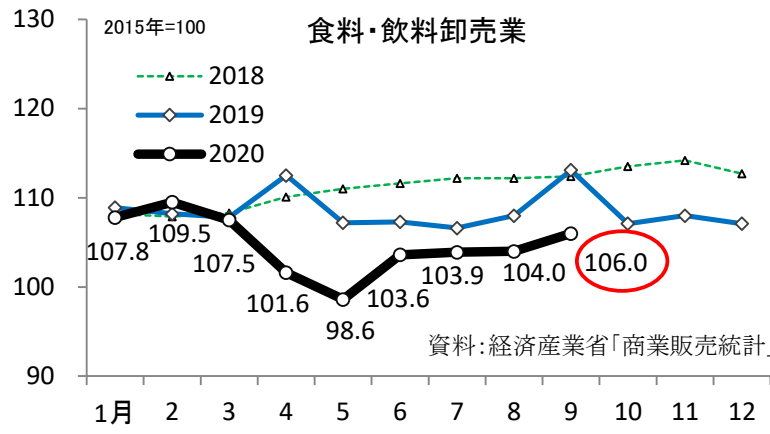
2. 食品卸売業・食品小売業 <グラフでみる"コロナショック"からの再生>

○ 食料・飲料卸売業

売上高 対前年同月比

9月 6.3% 減少

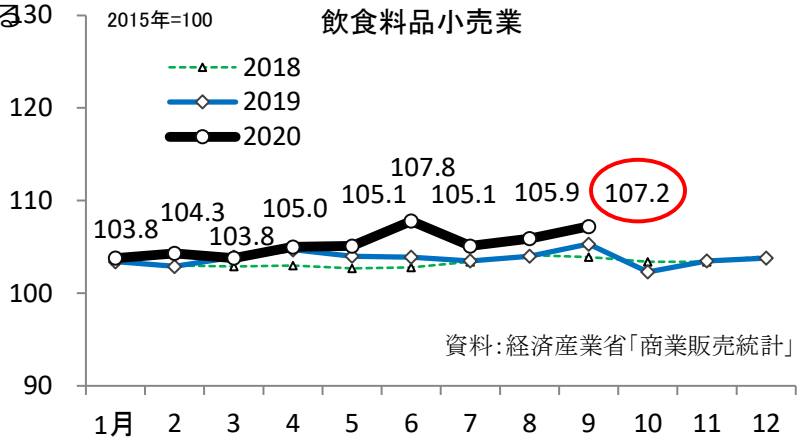
経済産業省「商業販売統計」は、全国の商業を営む事業所及び企業の販売活動の統計。具体的には、卸売業、小売業及び小売業の業態別（スーパー、コンビニエンスストア、百貨店の飲食料品都等の売上高（月次速報）について、みる30ことができます。（以下、続きます。）



○ 飲食料品小売業

売上高 対前年同月比

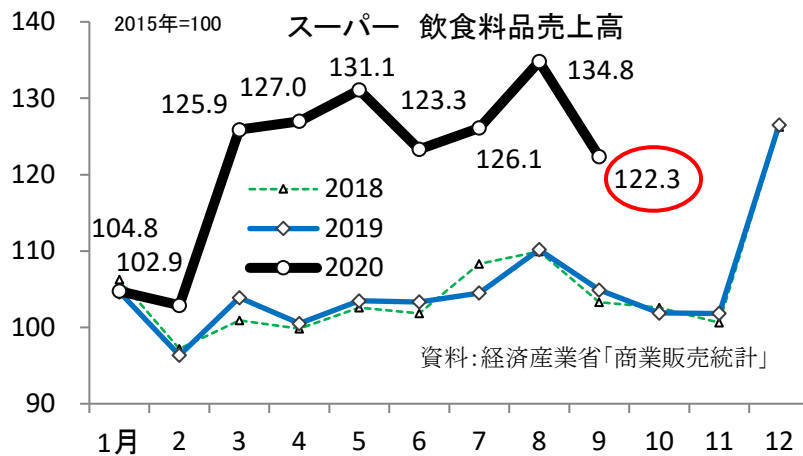
9月 1.8% 増加



○ スーパー

飲食料品売上高 対前年同月比

9月 16.6% 増加

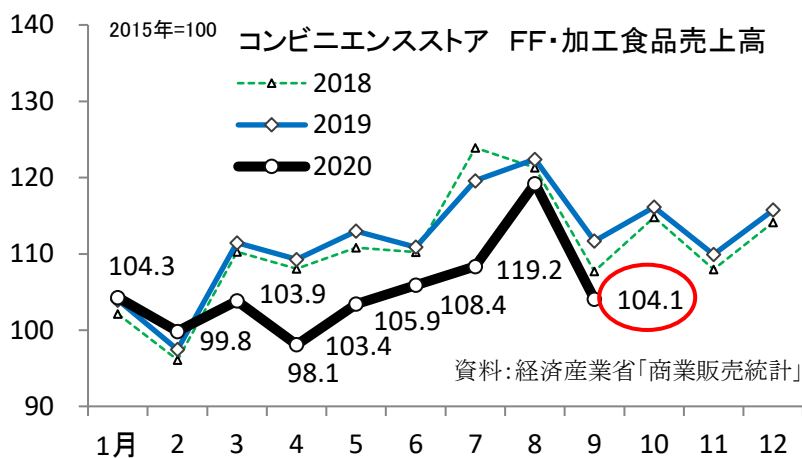


2. 食品卸売業・食品小売業 <グラフでみる"コロナショック"からの再生>

○ コンビニエンスストア

FF・加工食品売上高 対前年同月比

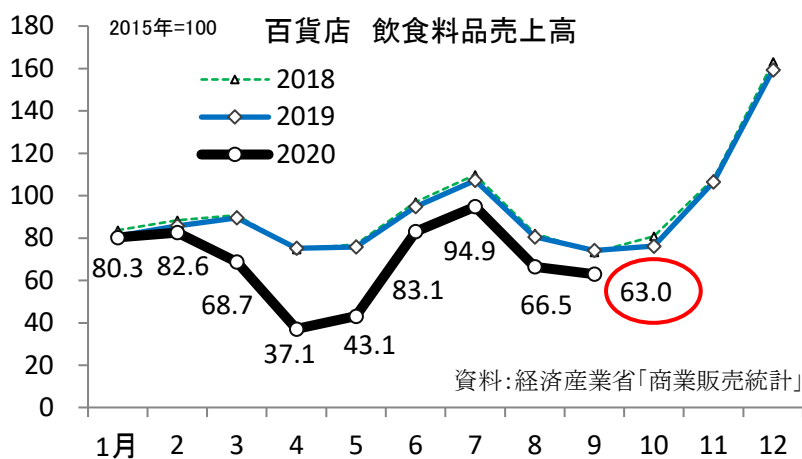
9月 6.8% 減少



○ 百貨店

飲食料品売上高 対前年同月比

9月 15.0% 減少



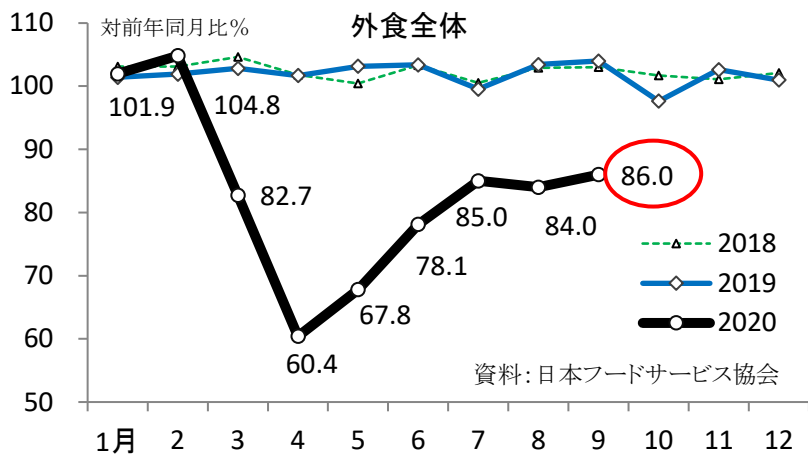
3. 外食産業 <グラフでみる"コロナショック">

一般社団法人日本フードサービス協会の「外食産業市場動向調査」は、外食チェーン企業203社約3万9千店の売上高等についての業態別の統計。直近の売上動向がわかります。
(以下、続きます。)

○ 外食全体

全店売上高 対前年同月比

9月 14.0% 減少

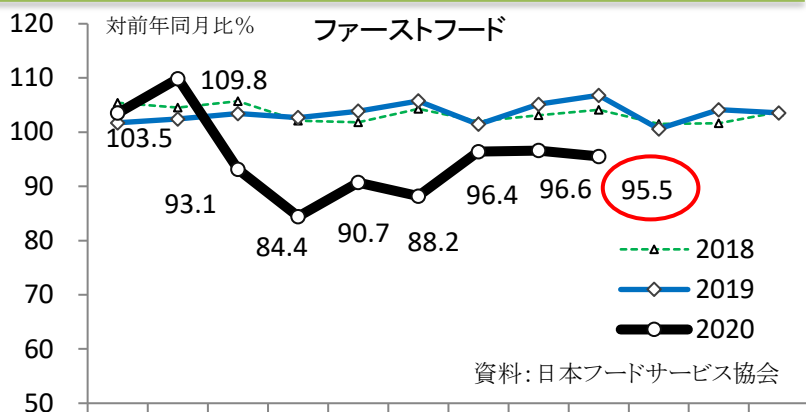


3. 外食産業 <グラフでみる"コロナショック"からの再生>

○ ファーストフード

全店売上高 対前年同月比

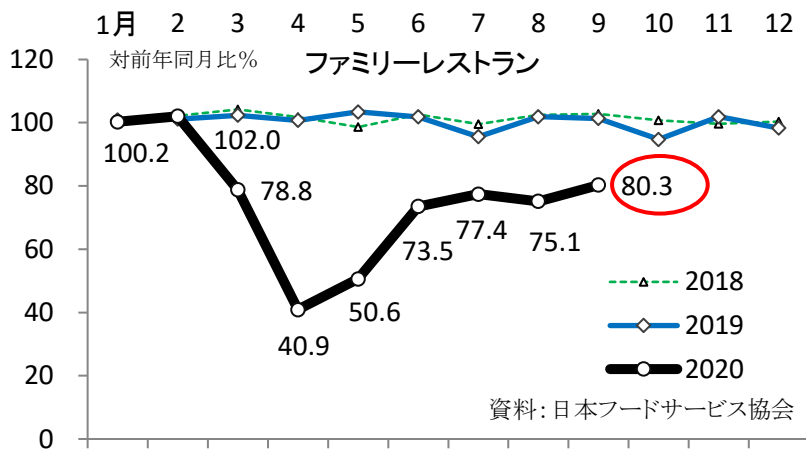
9月 4.5% 減少



○ ファミリーレストラン

全店売上高 対前年同月比

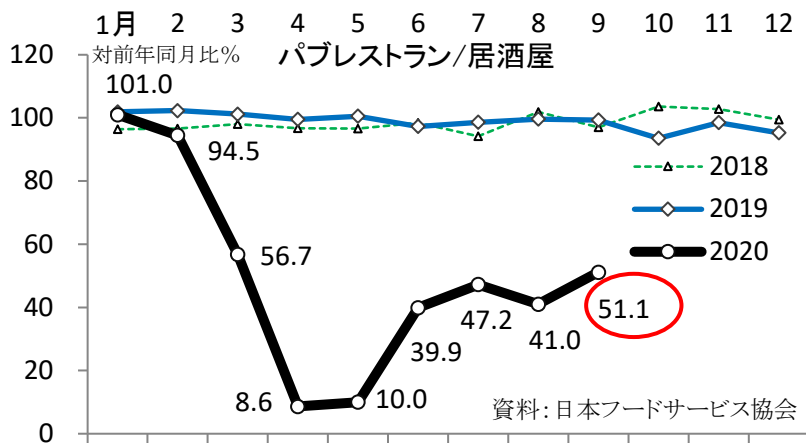
9月 19.7% 減少



○ パブレストラン/居酒屋

全店売上高 対前年同月比

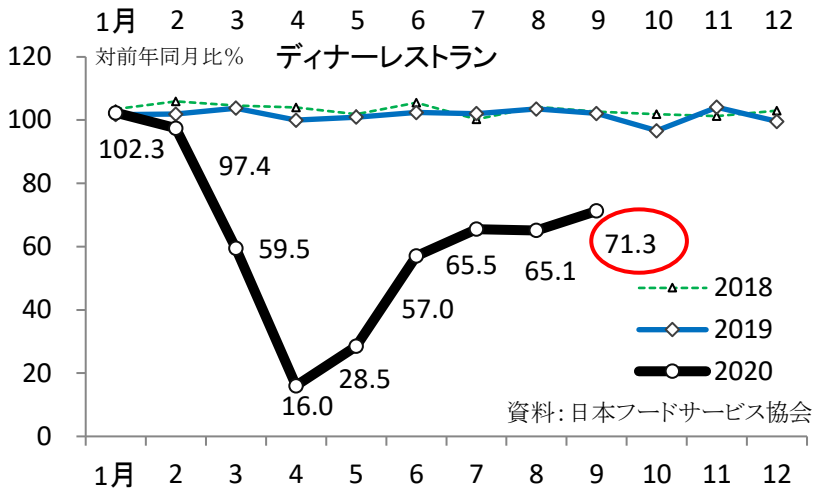
9月 48.9% 減少



○ ディナーレストラン

全店売上高 対前年同月比

9月 28.7% 減少

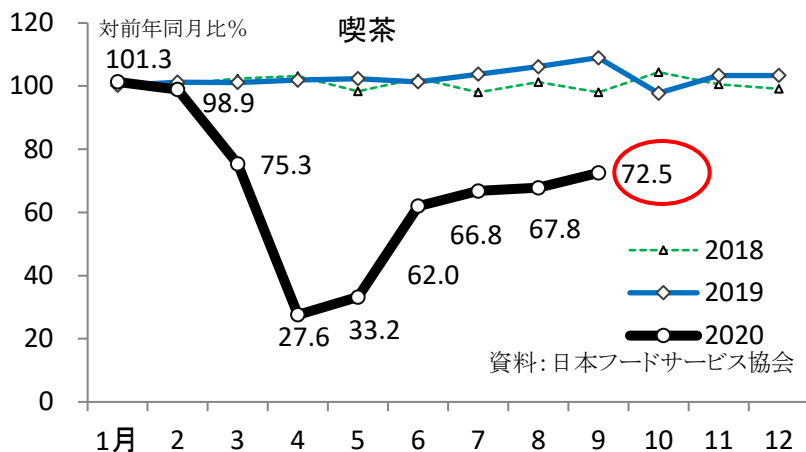


3. 外食産業 <グラフでみる"コロナショック"からの再生>

○ 喫茶

全店売上高 対前年同月比

9月 27.5% 減少



4. 食料品の物価

○ 企業物価指数

企業物価指数は、企業間で取引される品質を固定した商品（財）の価格を継続的に調査し、現在時点の価格を、基準時点（2015年）の価格を100として、指数化したもの。

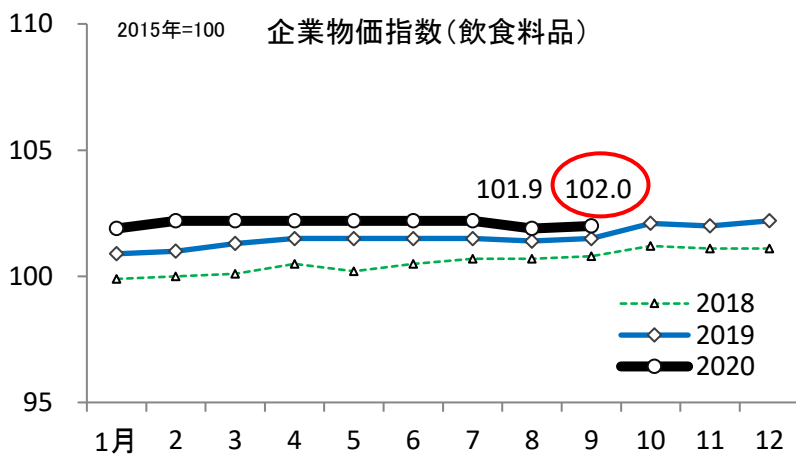
このうち、食品製造業（飲食料品）の出荷販売価格について、みることができます。

資料：日本銀行「企業物価指数」

○ 企業物価指数 （飲食料品）

飲食料品 対前年同月比

9月 0.5% 上昇



○ 消費者物価指数

消費者物価指数は、全国の世帯が購入する財及びサービスの価格変動を総合的に測定し、物価の変動を時系列的に測定するもの。

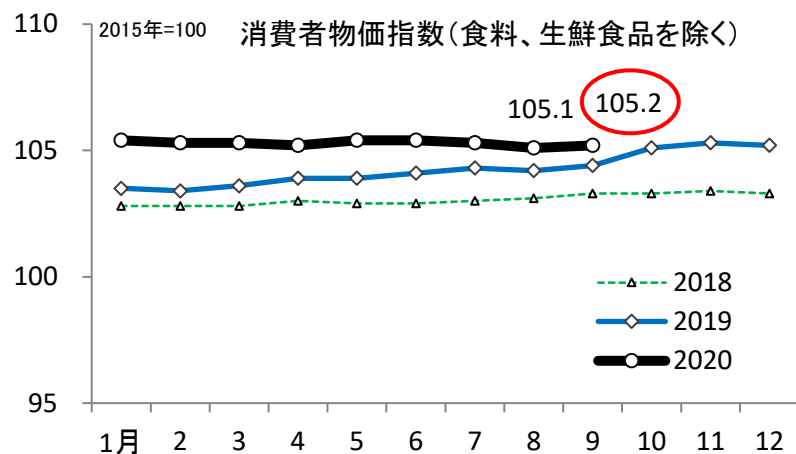
このうち、食料（生鮮食品を除く）について、みることができます。

資料：総務省「消費者物価指数」

○ 消費者物価指数 （食料、生鮮食品を除く）

食料 対前年同月比

9月 0.8% 上昇



2020年9月 農林水産物・食品の輸出額

農林水産省
食料産業局

	金額	前年差	前年比
9月単月	799億円	+42億円	+5.5%
1－9月累計	6,412億円	▲234億円	▲3.5%

品目別の状況

輸出額の増加が大きい主な品目

品目	増加額	主な増加国
アルコール飲料	+14億円	中国、香港、オーストラリア
清涼飲料水	+8億円	中国、米国、オーストラリア
日本酒	+7億円	中国、香港

輸出額の減少が大きい主な品目

品目	減少額	主な減少国
真珠	▲65億円	香港
ホタテ貝	▲14億円	中国、米国、台湾
ぶり	▲3億円	ベトナム

国・地域別の状況

輸出額の増加が大きい国・地域

国・地域	増加額	主な増加品目
中国	+20億円	アルコール飲料、丸太、清涼飲料水
米国	+10億円	インスタントコーヒー、緑茶
台湾	+9億円	ぶどう、なまこ（調製）

輸出額の減少が大きい国・地域

国・地域	減少額	主な減少品目
香港	▲16億円	真珠、貝柱（調製品）
英国	▲2億円	ソース混合調味料、牛肉
カンボジア	▲2億円	牛肉

2020年の農林水産物・食品 輸出額（9月）品目別

農林水産省
食料産業局

品目	金額 (百万円)	前年同月比 (%)
加工食品	34,177	25.0
アルコール飲料	6,193	28.4
日本酒	2,369	38.5
ソース混合調味料	3,413	18.6
清涼飲料水	3,405	29.3
菓子（米菓を除く）	1,645	▲4.9
醤油	673	5.2
米菓（あられ・せんべい）	418	15.2
味噌	330	13.8
畜産品	6,806	14.2
畜産物	5,454	16.4
牛肉	2,959	10.1
牛乳・乳製品	1,711	9.6
鶏卵	450	127.0
豚肉	169	100.5
鶏肉	165	6.9
穀物等	4,376	12.5
米（援助米除く）	259	▲24.3
野菜・果実等	5,064	28.6
青果物	3,721	37.0
ぶどう	1,551	73.7
なし	502	45.0
りんご	394	▲40.2
もも	341	7.8
かんしょ	219	66.7
ながいも	209	57.7
かんきつ	13	15.2
いちご	12	50.6

品目	金額 (百万円)	前年同月比 (%)
その他農産物	8,413	24.0
たばこ	1,193	10.8
緑茶	1,462	17.9
花き	186	▲43.9
植木等	125	▲54.6
切花	44	▲0.4
林産物	3,240	29.1
丸太	1,404	84.4
製材	515	33.4
合板	460	5.1
水産物（調製品除く）	12,974	▲35.6
ホタテ貝（生鮮・冷蔵・冷凍等）	2,801	▲32.8
かつお・まぐろ類	1,972	33.0
ぶり	1,572	▲15.2
さば	945	60.4
真珠（天然・養殖）	922	▲87.6
いわし	369	▲3.1
たい	344	34.7
さけ・ます	103	▲27.1
すけとうたら	70	▲39.0
さんま	44	▲27.7
水産調製品	4,847	▲5.3
なまこ（調製）	1,833	74.9
練り製品	916	1.7
ホタテ貝（調製）	184	▲51.3
貝柱調製品	183	▲52.4

※財務省「貿易統計」を基に農林水産省作成

5兆8千億円(平成29年度)

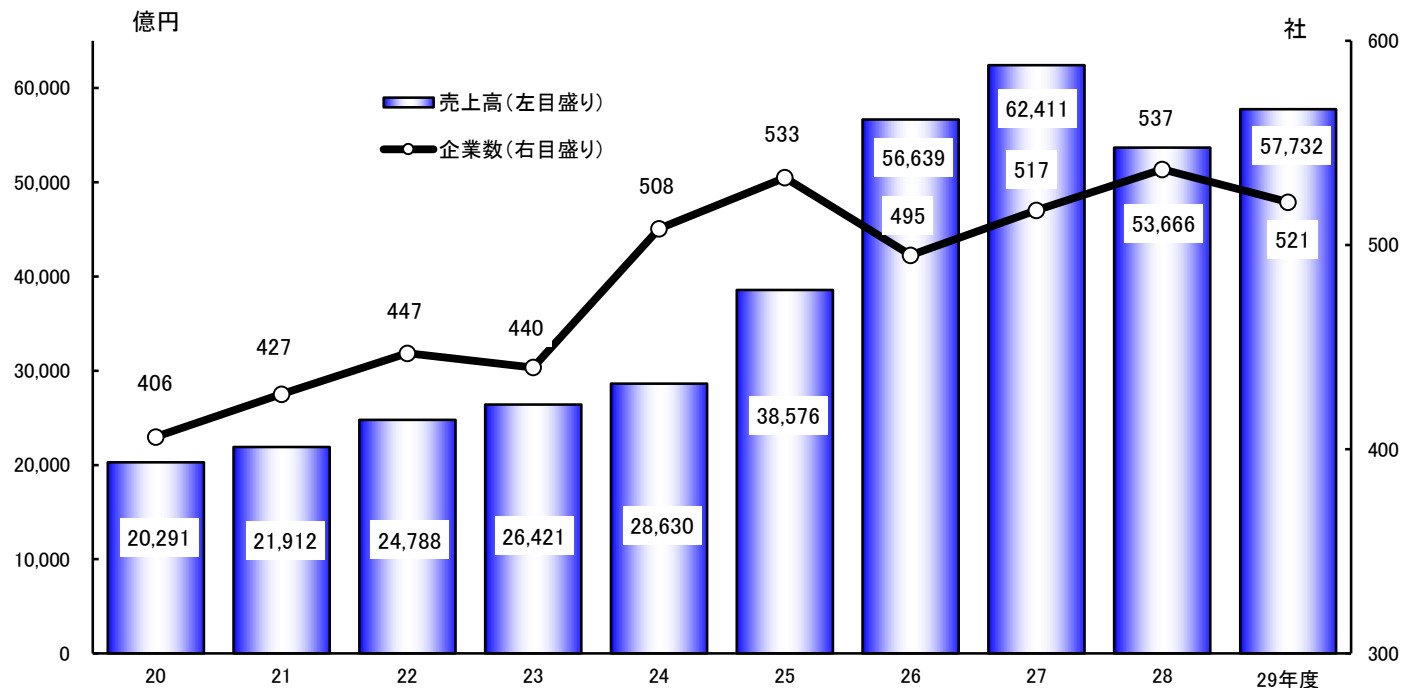
平成29年度の海外現地法人における食品製造業の企業数(回収数)は、経済産業省「海外事業活動基本調査」によれば、521社で対前年度比でやや減少している。一方、合計売上高は5兆8千億円で対前年度比7.6%とかなりの程度増加している。

食品製造業の合計売上高は、平成20年度は世界経済不況により減少したものの、平成21年度以降は順調に拡大していたが、平成28年度は減少に転じていたが、平成29年度は再び増加となっている。食品製造業は、国内市場が人口減少・少子高齢化などを背景に縮小傾向にある。

ことから、成長戦略を海外進出にもとめる動きが加速しているものの、海外における企業数の増加が、必ずしも売上高の拡大に繋がらない側面も見受けられたものの、平成29年度においては、必ずしも企業数の拡大が売上高の拡大と相関していない状況が見受けられる。

国別の現地法人企業数は中国が164社で最も多く、次いで米国が83社、タイが57社、インドネシアが34社、ベトナムが27社、イギリスが17社、マレーシア及びシンガポールが16社、オーストラリアが14社、台湾が13社、韓国が12社等となっている。

図 海外現地法人における食品の企業数と売上高の推移



資料：経済産業省「海外事業活動基本調査」より作成